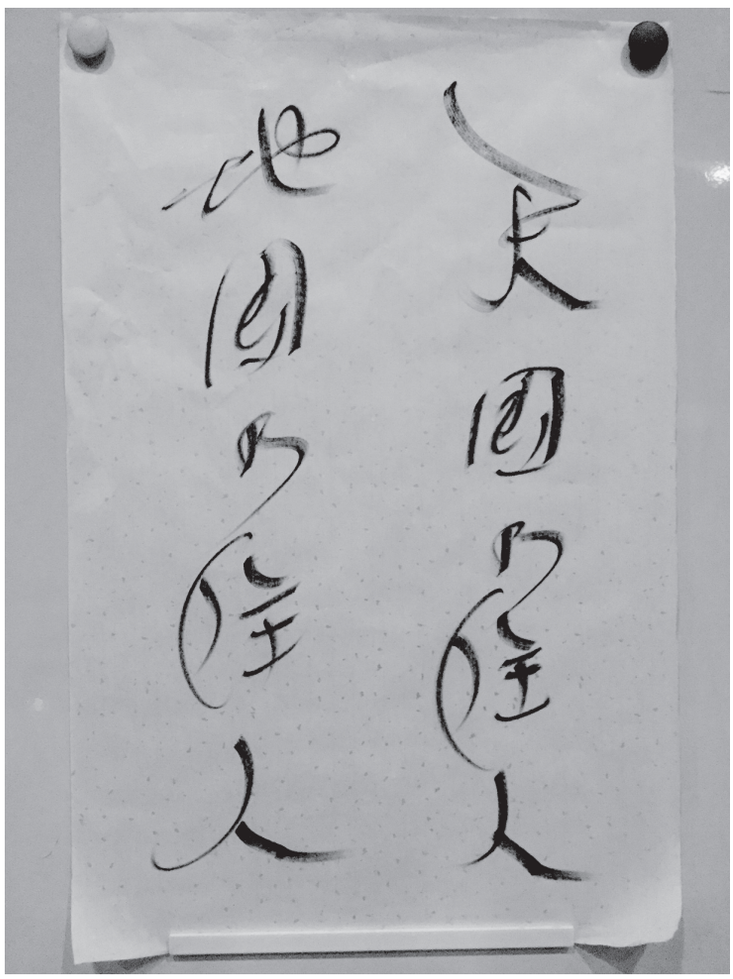
上江洲義秀

2018

無限 光話

「天国の住人 地国の住人」

YOSHIHIDE UEZU KOUWA SELECT 2018.3.11



東北の震災から7年

7年前の今日、世界を身震いさせるほどの東北の大地震と津波。
私はちょうどニューヨークのセミナーでした。
英語はわからないにしても、ニュースを見ていたときにあの現象を見せつけられて「夢を見ているのか」と思いました。
本来、神から与えられたエネルギーは、破壊のほうへではなく、
常に美しき建設のほうに働いていることを理解してほしい。
だからその命というエネルギーはいい方向に、悪い方向に、決して識別することはないんです。
皆さんの心というフィルター次第で、どこにもそのエネルギーは働くことを知ってほしい。
もし、そのエネルギーの働きが、私の悪い言葉、悪い思い、悪い表現に働いてくれなければ、みんな幸せなんです。

本来は無限にして完全意識の世界しかないんです。
本来は天国も地国（じごく）もないんです。
実相という本質の世界は、無限にして完全意識なんです。
いつか皆さんも、明想という手段をとおして本質・根源の世界に融合したとき、
天国・地国のない、健康・病気のない、完全意識の世界を体験するでしょう。

しかし私が今ここで天国の住人、地国の住人と記（しる）したのは、
その本質・根源の世界に至るまでの過程。
本質からずれて生きることにおいて、自らして苦しみ、悩みを作り上げて生きている人間を「地国の住人」。
常にすべてを愛し、すべてをいたわり思いやり生きて、今、幸せある人間を「天国の住人」と記しただけ。

2018. 3.11　無限

これ、2、3日前もはっきりそれを見せられました。
まあ、私はキリスト教、仏教、何の宗教も今生、学んでいません。
しかし、キリストという本質を教え説いたイエス・キリストが、全く今生の今の世を予言したんです。
やがて幕が2つに引き裂かれるときがくるだろう、と。

「黄金に輝く道」と「どん底の道」

私、沖縄での仕事を終えて昨日帰ってきました。で、その仕事は沖縄のほうで多くの方々が学び、成長し根源の世界へ帰っていける研修センターを我々は今、計画しているんです。
昨日、おととい、その前だったと思います。
今、その施設を建てようとする土地のど真ん中で私が目を閉じて明想をしたとき「黄金に輝く道」を見せられました。「ここは多くの方々が、光という根源の世界に帰る道となっていくだろう」と。
もう、その素晴らしさだけを見せられて、その素晴らしさで私はその日の仕事を終えてホテルにチェックインしました。

その晩の明想か、翌日の明想で全く逆を見せられました。
昨日はあれほどの黄金の道を見せられたのに、今日はまた「どん底の道」を見せられているんです。多くの人間がドロ沼でもがき生きている姿、もがきあがいている姿。
たとえば、ここがドロ沼とします。もう「助けてくれ」と手を上げて、指のこの部分（先端）しか出ていない人間。まあ、（ホワイトボードに手の絵を描いて）これは手ですよ。
この状態でドロ沼から出ている者。あるいは下半身出ている者。
で、神に教えられたことは、
「下半身までこのドロ沼から出ている者は、何とか救われる。常に謙虚な心を

3　天国の住人 地国の住人

失うことなく、常に正しい道を歩もうと努力する者は救われていくだろう」と言われます。
しかし、ドロ沼からもう指のこの部分（先っぽ）しか見えていない者。そういう方が救われた例はいまだかつてないというんです。
天国の住人、地国の住人……天国・地国の真反対を見せられているんです。

それがイエス・キリストが何千年前に説いた「幕が２つに引き裂かれるときがくるだろう」。
天の住人となるか、地国の住人となるか、すべてあなた方の生き方次第なんです。
その命というエネルギーが我々の、思い、言葉、表現を選んで働いてくれれば誰も幸せなんです。しかし、その本質「命」というエネルギーは、あなた方の思い、言葉に逆らって、あるいは表現に逆らって働くことは絶対にありえないんです。
じゃあ、ドロ沼にはまって、もがき苦しんでいる人間は、誰彼のせいだと言えましょうか。
すべて自分自身の思い、言葉、表現の放った波動が自分自身にはね返ってきただけにしかすぎないんです。
だから皆さんが今、自分の背負っている悩みや苦しみや不調和があの人のせい、この者のせい、誰かのせいと言うなら大きな勘違いです。
大きな間違いです。
良きも悪きもすべて自己責任であることを知ってもらいたい。
70億の人間が、この肉体という衣装をまとってこの地球という環境に降りてくる瞬間から、すべて思い、言葉、表現に責任を背負わされていることを知ってもらいたい。

私が一番思うことは、我々の正しくない思い、正しくない言葉、正しくない表現には、その命というエネルギーが働かなければいいのに、と。

2018. 3.11　無限

なら、悩んだり、苦しんだり、不幸で生きる人間なんていないんです。
ここが皆さんが今まで追求してきた神、あるいは仏、宇宙真理……本質の働きなんです。
だから本質は、法則そのものであって、決して手の届かぬ遠いはるか彼方にたてまつる存在ではないんです。
本質は神とも表現します。仏とも表現します。私は「命」と表現します。
肉体自ら無なり。
我々は肉体が生きているんではないんです。
すべてを創造し、すべてを生かしているのは、私は本質といいます。
で、本質は原因ともいえましょう。
皆さんはこの肉の目に映し見て「あの人がいる、この者がいる」「あれがある、これがある」と言います。
皆さんが「ある」「いる」と見ているものはすべて結果なんです。
結果は結果で存在することはできないんです。結果の背後には必ず本質という原因が働いていればこそ、結果が存在するんです。
しかし、結果は見えます。（ホワイトボードをトントンとノックしながら）結果は触れて感ずることもできます。

しかし原因はどうなのか。
原因は皆さんの目には見ることはできません。で、触れることもできません。
ゆえに我々は幾転生も幾転生も、その原因というものを見失ってきたんです。
で、皆さんが神を知りたい、仏を知りたい、何か悟りたい、何か知りたい、何か得たい、何か…と追い求めてきた何かが原因として見えないものだったんです。
それをすべての本質といいます。原因です。

その原因・本質を見るために、実感するために明想、内観、ヨーガという手段・方法を使っているんです。
私は「私」を追求したとき2、3歳です。2、3歳にして私は、

無限　2018. 3.11

「私が今『私』と思っている私は一体全体何者なんだろう？」
「どこから出てきたんだろう？」「どこに向かって旅をしているんだろう？」
「旅の目的は？」「旅の目的を終えてどこに帰るんだろう？」
「私」を追求したんです。
しかし、小さいときにその答えをつかんだことではありません。
南米の生活を終えてきて、沖縄に戻ってきて、また明想という手段を使えたときに本質を実感しました。
今、私が「私」と思い、見て、生きてきた「私」は、結果として本質を表現するための道具にしかすぎなかったことを見い出したんです。

だから肉体自ら無なり。肉体自らゼロなり。
肉体自らは生きていないんです。
肉体を生かしていたのは見えない本質・原因だったんです。
明想という手段をとおして、その本質を私は「命」と味わったんです。
命と実感したんです。
それを実感した、自覚したその瞬間から私の意識は「我、肉体にあらず、我は命なり」というその境地に変わったんです。

我、命なり。あなた方も命なり。我の命、あなた方の命は全体の命。
全体の命こそがすべての本質。だから私は本質を「命」と説いています。

あのイエスという肉体を持った方が、明想という手段をとおして、その本質を「キリスト」と実感したんです。実感……実際に感じたんです。
そのとき「我、キリストなり、すべてはキリストなり」。
キリスト教のはじまり。

あるいはゴータマ・シッダルタというその肉体を持った方…お釈迦様は「内観」という言葉を使いました。内観という手段をとおしてその本質を「ブッダ」と

2018. 3.11　無限

実感したとき「我はブッダなり、すべてはブッダなり」。
仏教のはじまり。

あるいはその本質を「神」と実感した者は「我、神なり、すべては神なり」。
仏と実感した者は「我、仏なり、すべては仏なり」。

私はその本質を「命」と説いています。
イエス・キリストは「我、キリストなり」と説きます。
ゴータマ・シッダルタ、お釈迦様は「我、ブッダなり」と説いています。
言葉はどう説いたって、本質に変わりはないではないでしょうか。
宗教とは一点の狂いのない法則そのものが宗教であることを知らねばなりません。
何かをたてまつって「健康にしてください」「幸せにしてください」「金持ちにしてください」と、盲信・狂信、偶像崇拝する対象物ではないんです。
今日の24時間、1日、一瞬、1分1秒、正しく美しくその法則のとおり生きていくのが宗教であることを知ってもらいたい。

だから宗教という漢字を書いてみてください。
宗教は皆さんの目には「宗（むね）の教え」と映るでしょう。
全く文字も学んだこともない、小学校1年から学校をサボって学校にも通学したことがない、文字を読み書きしたことのない私の目には「すべての教え、全体の教え、宇宙の教え、無限の教え」と映るんです。

じゃあ、宗教が無限の教えならば、どうしてそこにカタチ作って「あれが神だ」「これが神だ」と、そのように分離して説くことができるでしょうか。
私がその本質である神に到達したとき、言われた言葉はただひと言なんです。
無形無双の本質は、皆さんここに何も表現しなければ見えもしない、感ずることもできなければ、皆さんに教えることができぬゆえにこの衣装をまとって化

無限　2018. 3.11

身したんです。
だから見ているすべてのすべては本質・神の化身なんです。
インドの聖人だけが神の化身ではないんです。
あなた方ひとりびとりが、すべてのすべてが本質がまとっているこの衣装を神の化身というんです。
すべては神の化身ではないでしょうか。
だから、本質を理解している者に「特別」を説く人間なんていないんです。

本質は人の上に人を創らず。本質は人の下に人を創らず。
本質においては無所得・無条件にすべては平等なんです。
私の命、あなた方の命は一つの命なんです。
どうして私が偉いといえましょうか。
それこそ愚か者というんです。

我は全体であり、全体、我なり。
我はすべてであり、すべては我なり。
それが本質なんです。
じゃあ、誰と戦い合っていましょうか。誰を傷つけていましょうか。誰に怒りを向けていましょうか。誰に嫉妬を向けていましょうか。
すべて我なんです。

波動とは

（ホワイトボードに絵を描きながら）これ、ちょうど皆さんが池に向かって石を投げたとき、投げた石は波紋を広げます。波紋はゆっくり広がり、広がった波紋は猛スピードでこの投げた石にすべてはね返ってくるんです。
これがあなた方の思い、言葉、表現は必ずエネルギーの振動をここに起こしています。

2018. 3.11　無限

これ皆さん「波動」といいます。

あなた方の思い、あなた方のひと言ひと言、すべてエネルギーの振動を起こします。

で、これを波動といいます。

その波動は、地球を一周まわり、宇宙を一周まわれば、必ずや投げた石に波紋がはね返ってくるように、すべての思い、すべての言葉は、あなた方自身にはね返ってくるんです。

じゃあ、誰のせいで、誰の責任で苦しんでいるといいましょうか。

すべて自己責任なんです。

本質に分離して生きている人間なんて、ここにひとりもいないこと。

すべてのすべてあってあるものは、唯一の本質のなかに創造され、唯一の本質のなかに生かされ、唯一の本質がすべてのなかに生き働いていることを知らねばなりません。

じゃあ、そのひとつなる本質に、私は偉い者、私は高い者。あなた方は低い者、あなた方は偉くない、というならば、ひとつを知っていないというではないでしょうか。

ひとつなる本質が、一（いつ）なる本質が、すべてのすべてあってあるものを生かしていることを知らねばなりません。わが命は全体の命なんです。すべての命なんです。

で、無限の命なんです。誰と誰が分離することができましょうか。

「元子さんの顔が私大嫌いで絶対嫌」であっても、私は分離することができないんです。もうどうあったって、元子さんは私なんです。もうそこを愛するしかないんです。

皆さん、その意味を理解できましょうか。

誰も嫌えないんです。誰も憎めないんです。

誰も怒りや嫉妬を向けることができないんです。

なぜならば「一（いつ）にして多身（たしん）」なる私がいるだけなんです。

無限　2018. 3.11

その本質はこの衣装というものをまとわなければ、顕現することができないゆえに、無形無双です。無色・無臭・無音です。
だから衣装というものを作って、色をつけて、カタチ作って、自らを顕現しているのが本質なんです。
だから、我々が見ているものすべては本質のまとっている仮の姿、あるいは衣装なんです。
花々は鉱物は植物は70億の人間は、すべて一にして多身のあらわれなんです。
ちょうど皆さんがどんな小さな川をもどんどんどんどん追いかけて行けば、大海に融合します。で、我々もあらわれさまざま……動物、鉱物、植物、人間、宇宙や地球、微生物。しかし、何を追求したって一元なる本質にしか到達しないんです。
だから、私の見るあなた方はすべての一部。

皆さんはなぜ智恵を、なぜ力を、なぜ愛を与えられているにもかかわらず、どうして無智、無能、無力で生きているのか？
あたかも分離という錯覚から。
ひとりひとりはすべての一部なんです。全体の一部なんです。社会の一部なんです。世界の一部なんです。宇宙の一部なんです。無限の一部なんです。
じゃあ、それが理解されてみてください。今、無限力を持つことができるだろうと。
海に浮いている泡も、あるいは海から立ち上がる波も、大海と私は分離（している）というかぎりは、全体の力をもつことはできないんです。しかし、大海と私は一体なり。大海に染み入るひと粒のしずく。ひと粒なる我が、ひとしずくなるあなた方が、この大海を認めて大海と一体となってみてください。すべての力、全体の力、社会の力、世界の力、宇宙の力、無限の力を皆さんは所有することができるんです。
だから本来人間無限力なんです。
無限から分離して、まとっている衣装が私という錯覚が、無能・無力に追いや

2018. 3.11　無限

っているんです。
無力の我から力ある我へと。無智な我から智恵ある我へと。迷いの我から悟りある我へと。
今まで（のように）ただ結果だけを見て結果人間ではなく、その結果の背後に実在する本質「無限」を認めて融合したとき、無限力を皆さんは顕現することができるゆえに「万物の霊長」なんです。

今の人間は万物の霊長といえるのか？

万物の霊長たる人間が、今は本当に万物の霊長なんていえましょうか？
今、動物よりも劣っているんです。動物でさえも……私は南米のジャングル、あのアマゾンで育っていますから、動物や鉱物や植物をとおして学んだものは大きいです。
小鳥も、巣に生み落とした卵を、あるいはかえしたヒナを命をかけて守ろうとするんです。あるいはその動物も見てみてください。もう、命をかけてその子を守ろうとします。
しかし人間はどうなのか？　赤ちゃんを生んで、もう育てる意志がない。さまざまな方法で殺したり、いとも簡単に破壊をしているではないでしょうか。
果たして万物の霊長なんていえるのか、というんです。
そういう人間の間違った波動が地球を覆ったときに、地球には天変地異・天変地異、さまざまな事件や事故が常にそこに起こっているということを知ってほしい。
あの東北の地震も神戸の地震も、世界でさまざまに起こるさまざまな現象も、地球は勝手にそのような地震や津波や天変地異・天候異変を起こしていないんです。

花々は美しく咲きほこることはできても、地球を変えることはできません。
ライオンは象は、草原を駆けめぐることはできても、地球を変えることはでき

ません。
雨は地表は洗い流すことはできても、地球を変えることはできません。
地球を良き地球へ、悪き地球へ、その地球を良き悪きそうしているのは万物の霊長たる人間の想念・行為であることを知ってもらいたい。
花々は美しく咲きほこる。花というフィルターをとおして命の表現です。
動物というフィルターをとおして命は本性として示されます。
鉱物というフィルターをとおして命は親和力として表現されます。
万物の霊長といわれた我々をとおして本質は無限の智恵、無限の力、無限の愛を顕現していかねばならなんです。

宇宙は地球は、すべてが愛を演ずるための大舞台なんです。
だから、科学・医学は、地球もあるいは宇宙も難しい言葉で「ああだ、こうだ」で皆さんに、子どもたちに説明しているでしょう。しかし、命という根源の側面から見ればただひと言なんです。

宇宙は地球は、すべてが愛を演ずる舞台なんです。

じゃあ我々は、今、地球という愛を演ずる舞台に立ち、何を演じているのか？
憎しみ、怒り、嫉妬を演じています。
傷つけ合ったり、奪い合ったり、殺し合いを演じています。
どうしてどうして地球が健康であれるはずがない。
だから、今、地球上、世界で起こるさまざまな現象は、良きも悪きもすべて人類の放つ波動の結果であることを知ってもらいたい。

花々は美しく咲きほこることができても、決して地球を変えることは不可能なんです。
良き地球へ建設していけるのは、万物の霊長たる我々にしかできないんです。
しかし万物の霊長たる人間が今、何を演じていましょうか。

2018. 3.11　無限

毎日この地球という舞台に立ち、愛を演ずるべき舞台に立ち、何を演じていましょうか。
分離感で「あの人ゆるせない」「あの人嫌い」「あの人愛せない」「あの人憎い」。
じゃあ、その思いは誰にはね返りましょうか。
自分自身にはね返ってくるんです。
すべては我。本質は一にして多身のあらわれゆえに、皆さんはそこにあらわれたものを分離して、日本人、中国人、アメリカ人、ヨーロッパ人、インド人、どこの人種。
あるいは「私、男性」「あなた方は女性」と錯覚をしているんです。
だからいつも「錯覚から覚めよ」と大声を張り上げるんです。

錯覚から覚めよ。幻覚から覚めよ。夢から覚めよ。

一にして多身のあらわれに皆さんは錯覚していること。
全部追求してみてください。すべては同じ本質につながっていることを知るんです。
本質は一にして多身。己を顕現するために。

姿・カタチ・形態が異なっていても、表現の方法が異なっていても、生まれ出てきた場所・環境が違っても、皮膚の色が黒かろうが白かろうが、本質は唯一の一元なんです。
沖縄に生まれて育った私が、生活は南米のジャングル。私の命は、南米のジャングルの先住民の方々の命と何も変わらなかったんです。
わが命はすべての命だったんです。わが命は全体の命だったんです。
何の変わりがありましょうか。ただ表現の違いなんです。

ちょうど皆さんのお腹を切り開いたとき、心臓・腎臓・肝臓・盲腸……皆さんの想像もできない臓器が一体となって、一（いち）人体をここに健康に保つよ

無限　2018. 3.11

13 天国の住人 地国の住人

うに働いているでしょう
腎臓が心臓の代わりはしません。で、心臓が何かの臓器の代わりはしません。
だから、あなた方も全体の一部であるならば、ともに手をたずさえて、ともに助け合って顕現しないかぎり、この世に平和はないんです。

よく私はパズルをもって説明します、たとえます。
皆さんが１００ピースのパズルを組み立てたい。１００でもいい、１０００でもいい。
皆さんは99は完璧にセットしたといいます。
カタチ違います。同じカタチなんてないんです。
70億の人間の指紋が違うように、組み立てていくパズルのカタチも違う。置かれていく場所も違う。色も違う…そこに皆さん惑わされているんです。
99は完璧に組み立てたとして、1個だけ皆さんがまだ組み立ててない。
1個、置かれていく場所が気に入らない、で、カタチが気に入らない、色が気に入らない。
ごみ箱に捨ててみてください。永遠にそのパズルは仕上がりません。
しかし、そのごみ箱に捨てたパズルを拾ってきて空いている穴を埋めたとき、そのパズルは完成します。

だから我々も、どの国がいい、どこの国が悪いはないんです。
なぜならば小さな島でも、大国・中国でも、大国・アメリカでも、地球の一部なんです。
その地球の一部も、この地球も、また宇宙の一部なんです。
その宇宙の一部も、また無限にして一部なんです。
それ追求したのは私は3歳。
「自分とは何者なんだろう」。
自分自身を追求したとき、自分は家族であることを知りました。
家族を追求したとき、家族は社会であることを知りました。

2018. 3.11　無限

社会を追求したとき、その社会は世界であることを知りました。
世界を追求したとき、世界が宇宙であることを知りました。
宇宙を追求したとき、宇宙は無限であることを知りました。

だから今の科学の説いている宇宙なんて、それさえもその本質の描いた影にしかすぎないんです。本質の描いた結果にしかすぎないんです。
お釈迦様が宇宙即我（われ）、宇宙即我（が）と説いたのは、今の科学が教えているこの「結果宇宙」を説いたんではなく、影の宇宙を説いたんではなく、すべての創造の源「本質」を宇宙と説いたんです。
なぜ私は宇宙のことも地球のことも何にも学んだこともないのにかかわらず、なぜ宇宙即我を知っているのだろう？
はっきり味わっているから知っているんです。

本質は何もなくて無限にすべてがある世界

ちょうど私が明想という手段をとおして、その本質の境地に融合したとき、神は私の内側からはっきりささやいたんです。
もうそこは、無形無双・無色・無臭・無音です。
今まで死ねば美しい花々がある場所とか、綺麗な川から流れるその水の音とか、そういうものだと教えられて「実相という根源の世界に入ったらどんなに美しい場所に行くのだろう」と思ったけど、何もないんです。この本質という世界は。なぜならば、本質がまだ創造していなければ、何もない無限の意識状態があるだけなんです。
無限の意識が、何もない世界だった、しかし創造すれば無限にすべてがあるがゆえに、何もない世界であるにもかかわらず、また創造すれば無限にしてすべてがあるゆえに「何もない世界だ、しかし創造すれば無限にしてすべてがある」という表現をするんです。
もうこれ以上、それ以下の表現がないんです。

無限　2018. 3.11

何もない世界です。しかし創造すれば無限にしてすべてがあります。
こういう表現しかないんです。その境地に至ったとき、神は私の内からささやいたんです。
「今あなたが融合している本質というこの世界が、お釈迦様が説いた宇宙即我（われ）、宇宙即我（が）の境地です」と。

その本質をお釈迦様は、宇宙即我（われ）、宇宙即我（が）と語ったんです。
何もなくて無限にすべてがあるというこの世界を。
イエス・キリストが、その本質を「父なる神」とたとえて「父なる神と私とは一体であった」という境地。
また私が今味わっているこの境地、それがお釈迦様が説いた宇宙即我（われ）・宇宙即我（が）の境地。でイエスが説いた父なる神と私とは一体なり。
だから私は偏ることなく両方が語ったその境地をはっきり自覚しているんです。

私は本質を「命」を説きます。
イエスは「キリスト」と説きます。
ゴータマ・シッダルタあの方は「ブッダ」と説きました。
じゃあ表現・言葉が違ったって、本質は永遠に変わらないではないでしょうか。
だから本質は時代の新旧において変化することはない。人間の観念・概念で作り変えることも破壊することもできない。
だから本質の世界に融合したとき、皆さんもはっきり言うんです。
「久遠常在（くおんじょうざい）、不滅にして実在」と言い切ります。
久遠とは永遠の我、常在とは常にある我、不滅とは一度だって破壊されたことのない我、実在とは実際にある我……これがあなた方が幾転生という人生をかけて追求し求めてきた「その答え」だったんです。

2018. 3.11　無限

人間は死なない

本質に至ったとき皆さんは、もう年老いていくこともない、死ぬこともない、病み苦しむこともない。過去に今に未来永劫に、常に常にこの無限に遍満する我を実感します。そのとき皆さんのその意識から、生老病死という四苦一切が消えていくだろう。

だから、あなた方が「我、肉体なり」と錯覚で生きているかぎりは、生老病死というニセモノは常に常にあなた方につきまといます。

だから皆さんは年老いていきはしないか、死にはしないか、病みはしないか、苦しみはしないか、そう思っているのは、肉体は我という錯覚で生きてきた結果ではないでしょうか。

じゃあ今、私をつかまえて火の中に投げ込んでみてください。何が燃えましょうか？　何が焼けましょうか？　燃えているのは焼けていくのは、この「肉体物質」なんです。私の本質である「命」なんて焼けもしない、燃えもしないんです。

だから不死不滅、永遠の私なんです。で、永遠のあなた方なんです。これが皆さんがつかみたかったすべての実体であること。

あなた方が「我、肉体」と錯覚で生きているかぎりは、
死にたくない。死にます。
年取りたくない。年取ります。
病み苦しみたくない。病み苦しみます。
なぜならばニセモノを我と錯覚で生きているかぎり、ニセモノが常に常にあなた方をついてまわるんです。

だからお釈迦様も王子という地位が与えられていても、前を見れば生きる苦しみ。後ろを見れば死ぬ苦しみ、右を見れば病む苦しみ、左を見れば年老いてい

無限　2018. 3.11

く苦しみ。
「なぜ人間には生老病死という四苦がつきまとうんだろう」。
どんなに王子という地位が与えられていても、その生老病死という四苦につきまとわれているかぎり心に安らぎはない。
「明日はどこかから敵が攻めて城を撃ち落とされないか」……明日の苦しみ。で、皆さんもそう。
「明日は日本はどうなっていくんだろう、世界はどう変わっていくんだろう」。
常に苦しみです。
じゃあ「私が永遠の命」であることを理解できてみてください。
どこからミサイルがこの日本に飛んできたって、死ぬ私なんていないんです。
火の中に投げ込まれて焼けていくのは燃えていくのは、この肉体物質であって、命という私まで燃やすことも焼くこともできないんです。
命は火の中に投げ込まれて焼けることも燃えもしない。水の中に投げ込まれても、濡れることも溶けることもない。風にさらされて乾くこともない。世界の武器を向けられ肉体は破壊されようとも命を破壊することはできない。
それを久遠常在、不滅の実在というんです。
じゃあ、その「命」を「我」とはっきり自覚している者に、生老病死・四苦が指1本触れることができるでしょうか。
我、この世の闇を照らす光なり。我、宇宙を照らす光なり。
この世の無智が、闇が、悪が、迷いがわが内なる本質という命には指1本触れることができなかった。悪のなかにいて悪の影響を受けることはありません。
どんなにまわりが「人間は死ぬものだ」と言ったって死なないんです。

私が死を追求したのは2歳ですよ、2歳。
「死んで人間はどこに帰るんだろう？　死んで墓と言うけど、墓場から向こうはどういう世界が待っているんだろう？」。
誰をも私が納得いくほどの答えを返しきれた者はいないんです。
もうこれは自分自身でその答えを見い出すほかにない、というのはそこからの

2018. 3.11　無限

追求なんです。
死んで人間はどこに帰るんだろう？　死んで墓と言うけど墓場から向こうはどういう世界が待っているんだろう？　死というものは何を意味しているんだろう？

たとえばここに氷があります
氷が溶けて水となります。水はさらにバイブレーションを高めて気体に変わります。氷が溶けて水となることを「氷が死んだ」という人間はひとりもいない。水がバイブレーションを高めて気体となっていく姿に「水が死んだ」という人間はひとりもいない。「氷は水に変化しました」と言うでしょう。「水は気体に変化しました」と言うでしょう。

じゃあ、皆さんなぜ人間にはそう見えないのか。
誰に質問したって答えは同じ。「死ねば終わり」だって言うんです。
「死ねばすべてが終わり」と言ったんです。
「わずか人生60年や70年、80年生きてすべてが終わりならば、なぜ我々はここに肉体を持って生まれてくる必要があるのか？」と、私は2歳、3歳でそれをまた追求したんです。
まず身近にいるお父さん、お母さんに質問しました。
「人間が死んでどこに帰るのか？　死んで墓と言うけど墓場から向こうはどういう世界が待っているのか？」と。
「死ねばすべて終わり、こんなことを追求するより勉強しろ」と言われました。
行き会うひとりひとりに、もうその答えが知りたくて同じように誰にも質問します。
つかまえれば質問します。誰も同じこと「死ねばすべて終わり」。
わずか人生の60年や70年、80年を終えてすべてが終わりならば、なぜ我々はここにあえて生まれてくる必要があるのか？　とまた疑問を増やしたんです。また問題が増えたんです。

無限　2018. 3.11

19 天国の住人 地国の住人

だから追求すればするほど、そこに問題が増えます。疑問が増えます。

私は、人生とは道といいます。道とは人生といいます。
だからひとりひとりの人生、道がひとりひとりみんな違います……右を歩む者、左を歩む者、真ん中を歩む者、さまざまな側面を歩んでいます。
なぜ皆さんは苦しい人生、悩み多き人生といいましょうか？
私がはっきり答えをつかんだもの……人生という道を歩むことにおいて、我々は必ず疑問も湧いてきます。自分の内側から。で、また問題にもぶつかります。で、あなた方は問題にぶつかっても、このぶつかった問題に対して正しい答えを引き出せない。で、自分の内側から湧いてきた疑問に正しい答えを引き出すことができない。これはなんと言いましょうか？
正しい答えが見えない者を、無智・盲目・迷いというんです。
無智の人生、盲目の人生、迷いの人生を歩んで、どうして幸せになれましょうか。
私の今つかんでいる喜び、幸せ、至福というのは、皆さんが想像すらできません。
なぜならば無限を味わっているがゆえに。
皆さんに見せることもできない。答えることもできないんです。
無限が答えられるなら無限ではないんです。
だから皆さんに「あなた方も味わってみよ」としか言えないんです。
あなた方の宝なんていつかは色褪せていくもの。いつかは失っていくもの。
私の今つかんでいる幸せ、至福というその宝は誰をも奪えません。誰をも破壊することはできません。

２０１８年、何十年振り返ってみたところで、私は１秒だって悩んでいないんです。１秒だって苦しんでいないんです。１秒だって不調和であったことがないんです。
なぜならば、ぶつかる問題、自分の内側から湧き出てくるその疑問、私が納得いくほどの答えをすべて智恵の泉から引き出して、私は自分自身に答えることができるんです。

2018. 3.11　無限

だから皆さんの悩み、苦しみは、問題にぶつかったけど、その問題を解決する仕方が解らない。
疑問も湧いてきたけど、その疑問に対する正しい答えを引き出すことが出できない。
苦しんで当たり前ですよ。
どうしてどうして正しい答えを引き出せないで、問題にぶつかって、その問題を解決できなければ誰が幸せになれましょうか。

得ることは与えること　与えることは得ること

我、神なり。我、神なるがゆえに無限の智恵、無限の力、無限の愛の泉・宝庫わが内にあり、なんです。皆さんは「ください、ください、ください」と物乞いみたいに生きているかぎりは、常に苦しみもがいて人生を終えます。

得ることは与えることなんです。与えることは得ることなんです。

我々はまず得ることからではないんです。
与えて与え尽くしたときに、我々は与えられるんです。
で、それは沖縄のことわざで、お金をかけ引きして儲けることを「ソロバンをはじく」といいます。「相手にソロバンをはじく」というのは、相手を儲けさせるということ。で、自分自身のエゴ・欲望で、自分自身の儲けだけしか考えない人間を「自分にはじく」という表現をします。
我々は小さいときから「ソロバンは相手のためにはじきなさい」と教えられてきたんです。
つまり、愛を得ようではなく、愛を与えること。
智恵を得ようではなく、智恵を与えること。
力を得ようではなく、力を与えること。
それを（相手に）ソロバンをはじくという表現をします。

無限　2018. 3.11

愛を得ようとする者、愛を失い、
愛を放つ者、愛を得る。
命を得ようとする者、命を失い、
命を放つ者、命を得る。
持てる者、さらに多く与えられ、
持てぬ者は、持っているものさえも奪われる。

だから私がこの何十年も1秒悩んだこともない、1秒苦しんだこともない、1秒不調和であったこともない……その理由は表現にあります。
一瞬、一瞬の私の表現は、
愛するは愛されるよりも美しく、すべてを幸せにすると、私は生きるんです。
しかし、苦しみ生きている人間は常に「得よう」なんです。
愛をください、愛してほしい……どうして物乞いが幸せになれましょうか。

いつもたとえます。
古い木箱の上に座って、通りかかる人間に野球帽子を差し出して、毎日「ください、ください、ください」と願う物乞い。ある男性がそこを通りかかったとき、いつものように野球帽子を差し出して「ください、ください」と願いました。その男性は、
「私はあなたに与えるものは何も持っていない、あなたの座っている箱は何か？」と、その物乞いに聞いたとき、その物乞いは答えました。
「取るに足らない古い木箱の上に座って、私は何十年も物乞いをしています」と。
「じゃあ、あなたはそのフタを開けて中を覗いたことがあるのか？」と聞かれたとき、
「まだフタを開けたことがない、中を覗いたことがない」と答えるんです。
「じゃあ、だまされたと思ってフタを開けて中を覗いてみろ」と言われました。
その物乞いはおそるおそるフタを開けて中を覗いてみたならば、黄金の宝がぎっしり詰まっていたというんです。

2018. 3.11　無限

これ、黄金の上に座っていながら物乞いをしている愚か者。

じゃあ、我々はどうなのか？
本質から「無限の智恵」「無限の力」「無限の愛」を、あなた方はＤＮＡとして遺伝として受け継いだんです。
あなた方が受け継いだ精神病、肉体的な病い、悩み、苦しみは誰彼からも受け継いでいないんです。それはすべてあなた方の観念・概念で作り上げた仮相にしかすぎないんです。ニセモノにしかすぎないんです。
あなた方の本質から受け継いだＤＮＡ・遺伝は無限力なんです。
無限の智恵、無限の力、無限の愛なんです。
これがあなた方が本質から受け継いだＤＮＡ・遺伝なんです。

じゃあ、平等に我々は受け継いだものではないでしょうか。
神は私に特別にその能力を与えているんではないんです。私は何をさておいてもその本質を知りたかったんです。もう生まれながらにしてそれを追求してきたんです。もう今生こそ私がつかみたい宝に到達しなければ私は無価値の人生を歩んでいるにしかすぎない。小さいときからそう願ってきたんです。そういう思いをもってきたんです。

だからあなた方もその扉をたたけば必ず開かれます。
しかし、皆さんは忍耐がない。今日はたたいたけど、明日からはたたかない。
絶対、扉は開かれません。
今日は探します。しかし明日からは探しません。
どうして探しものが見つかりましょうか。
今日は求めたけど、明日からは求めもしません。
どうして与えられましょうか。

心を尽くし、思いを尽くし、精神を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、たた

無限　2018. 3.11

いていく者のみに扉が開かれ、探していく者のみ探しものが見つかり、求めた者のみに与えられるということを知らねばなりません。

これを皆さん自身が理解できずして、この世の卒業なんてないんです。
また今生も本質を見失って肉体を去るならば、また何百、何千、何万、何十何万という輪廻という鎖につながれて皆さんは舞い戻ってくることほかにないんです。
これを自縛というんです。
逆に、自縛からの解放を「解脱」。解脱に至ってみてください。
何万年の転生させられた法則、今ここに解けたり。
幾転生という人生の過程をとおして背負ってきた業・罪・カルマなるその宿題は、真理からくる叡智という神性火花、愛という神性火花ですべて焼き尽くして灰となります。

じゃあ、何が残りましょうか。
我、本質なり。本質は、無限にして完全意識、我は完全なり、という境地に至ります。
これが真実の答えなんです。
これ以上、これ以下の答えはどこを探しても求めても、ないんです。
真実の答えはただ一つ。
「我、本質なり」だったんです。
この肉体物質は、その本質を顕現するために一時（いっとき）まとっている仮の姿、衣装にしかすぎないんです。
今生こそ我々は、真剣にその真理に立ち向かって、今生こそ黄金の道を歩み、完成に至りたいと思います。
決してドロ沼に落ち込むあなた方であってはなりません。本来は無限にして完全意識のみであるにもかかわらず、自らして自らの迷いを作り上げて、自らの地国を作り上げていることほかにないんです。本来、実相という根源の世界に

2018. 3.11　無限

は天国も地国もないんです。
無限にして完全意識のみが実在なんです。
それが本来のあなた方の姿なんです。
姿といえばどうしても「カタチ」を「形態」で感じよう、思おうとして皆さんは迷うんです。姿とは無形無双・無色・無臭・無音なる本質そのものだったんです。これがあなた方の本来の姿というんです。
カタチは結果です。カタチは影・幻・幻影です。仏教ではこの世を何と説いていましょうか。
この世は無常世界と説いているではないでしょうか。影・幻・幻影の世界と説くではないでしょうか。
本来のあなた方は久遠常在、不滅にして実在なる無形無双・無色・無臭・無音なる「本質」なんです。必ずや今生、我々はその黄金の道を歩み、本質の世界に融合していきたいと思います。

二度と再び、あの事件や事故が繰り返されないように、常に良き想念、良き言葉、良き表現でその法則を守り抜いて生きることができるならば、皆さんは今の今、無限の至福という本質の世界に融合していくことができるだろう。
だから天国の住人にしているのも皆さんの意識次第、地国の住人にしているもの皆さんの自由意思。で、自分次第。で、それを超えたとき皆さんは天国・地国もない本質という一元なる世界であったことを知ります。

今日も魂高き皆さんとともに無限（セミナー）で学ぶことができたことに、心から私は嬉しく思います。ありがとうございました。

通訳してくださったSさんに感謝します。

無限　2018. 3.11